

第5回 *Phytophthora*, *Pythium* および関連属の 国際ワークショップに参加して

国立大学法人岐阜大学大学院連合農学研究科 **三 宅 律 幸**

はじめに

第5回 *Phytophthora*, *Pythium* および関連属の国際ワークショップは、2013年8月24日（土）から25日（日）まで、中華人民共和国、北京国際コンベンション・センター（図-1, 2）の311号室で、第10回国際植物病理学会（ICPP2013；8月25日（日）から30日（金）まで開催）の1分科会として開催された。このワークショップは、2004年に第1回が開催されてから今回で第5回目となる。会場は、北京市内北部のオリンピック公園内に設けられた北京国家体育場（鳥の巣）の東隣になり、北京国家水泳センター（水立方）や北京国家体育館も近くであり中国人観光客で賑わっていた。残念ながら国際学会開会中は、北京も日本と同じく暑い日が続いていた。今回のワークショップに日本からは、筆者を含めて3名の日本人が参加した。

I 基調講演

8月24日（土）午前8時にワークショップが開会し（図-3）、初日は主催者の Yilmaz BALCI（University of Maryland）、Frank MARTIN（USDA-Agricultural Research Service）、David COOK（The James Hutton Institute）の3名から次のとおり基調講演があった。午前8時30分～正午までは、モーニングセッション：「疫病菌とピシウム属菌のサンプリング方法、分離方法、分類学」として、2題の講演があった。第1題目は、「分離方法、保存方法、接種試験、種記載のデータ収集のための技術」として、分離用培地、サンプリング方法、分離方法（土、水、罹病植物）、病原性試験、菌株保存方法の技術などについて説明があった。分離用培地は、V8 ジュース培地またはコーンミール寒天培地を用いて抗生物質や殺菌剤を用いた選択培地を作成して利用する。分離源としての葉、根、土などからのサンプリング方法を説明があった。そして水からはフィルターを利用した分離方法が説明された。病原性試験では、接種方法とインキュベーション

の日数について説明があった。菌株保存方法については、斜面培地・水保存・-80℃凍結保存・液体窒素による凍結保存について説明があった。第2題目は、「フリー・オンライン・キー：The *Phytophthora* Lucid Key を利用した分離菌株の特性と形態的特徴による同定」として、*Phytophthora* Lucid Key を利用した疫病菌と *Pythium* 属菌の形態同定方法について説明があった。

II 第1日目セッション

午後1時15分～3時15分まではアフタヌーンセッション：「同定と個体群解析のための分子生物学的手法。

植物防疫



図-1 第10回国際植物病理学会会場の玄関前



図-2 第10回国際植物病理学会会場の玄関内部

Introduction of 5th International *Phytophthora*, *Pythium*, and Related Genera Workshop. By Noriyuki MIYAKE

（キーワード：第10回国際植物病理学会、国際ワークショップ、*Phytophthora* 属菌、*Pythium* 属菌）